

令和5年度第1回  
射水市高齢者保健福祉・介護保険事業計画推進委員会会議録

- 1 日 時 令和5年6月29日（木）午後1時30分～午後3時00分
- 2 場 所 射水市役所（本庁舎）会議室302・303
- 3 出席者
  - (1) 推進委員会委員 15名  
宮嶋会長、新鞍副会長、野澤委員、櫻田委員、野田委員、多比木委員、  
義本委員、笹本委員、紺谷委員、小林委員、寺林委員、向田委員、篠田委員、  
二瀬委員、窪田委員
  - (2) 事務局 14名  
小見福祉保健部長、轟福祉保健部次長、山口地域福祉課長、菓子介護保険課長、  
政岡保健センター所長、加治市民病院看護部長、竹島地域福祉課課長補佐、  
長谷川地域福祉課課長補佐、浅井地域福祉課地域ケア推進係長、田中介護保険  
課長補佐、坂井介護保険課介護保険管理係長、坂本保健センター健康増進係長、  
中波地域福祉課福祉政策係主査、熊藤介護保険課介護保険管理係主任

---

[会議次第]

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 会長・副会長選任
- 4 議題
  - (1) 令和4年度の進捗状況等について
    - ア 射水市の高齢者人口及び要介護等認定者数の推移について
    - イ 射水市高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画の実施状況について
  - (2) 高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画の策定について
    - ア アンケート調査の実施結果について
    - イ 策定スケジュールについて
- 5 その他
  - ア 保険者機能強化推進交付金を活用した保健福祉事業について
  - イ 地域支え合いネットワーク事業普及啓発用動画について
- 6 閉 会

[会議録]

事務局 議題（１）令和４年度の進捗状況等について

ア 射水市の高齢者人口及び要介護等認定者数の推移について

イ 射水市高齢者保健福祉計画・第８期介護保健事業計画の実施状況について説明。

会 長 個人的には報告にあった「射水市介護福祉士奨学資金貸与事業」の申請が１名出て良かった。富山福祉短期大学の学生だったと思う。今年度は射水市の学生は７名の入学があった。例年２、３名である。その子たちが射水市のそれぞれの施設、事業所に就職してもらえればいいと思う。

委 員 １８ページに「軽度認知症の疑いのある人の早期発見と適切な対応」とコメントがあるが、早期発見はどのようにされるのか。地域としてはどういうお手伝いができるのか。

事務局 物忘れのある方、認知症の心配がある方を対象に、市内に６か所ある認知症サポート医のところで、認知機能テストを行う。認知機能テストで疑いがあるとスクリーニング検査を行う。その後、認知症と判断されれば受診につなげる。そこまでいかない「軽度の認知機能の低下」であれば、地域包括支援センターが、介護サービスや、地域の介護予防活動につなげる支援を行う。物忘れ等で認知症の心配な方がいたら、地域包括支援センターに連絡・相談してほしい。

会 長 ほか、何か質問はあるか。

委 員 ４ページの食生活改善推進員活動事業について、私自身食生活改善推進員なので分かるが、会員数がだんだん減ってきている。継続されない人が多い。辞めていく人に聞くと、いろいろなセミナーに参加した後の報告書の提出が、高齢になるとすごく大変とのことである。事務局も聞いていると思うが、この辺のやり方を工夫したら会員数が減少しないと思う。ただ会員数を増やすのではなく、どうしたら内容が充実するか精査してほしいと思う。

事務局 食生活改善推進員とヘルスボランティアとも高齢化が進んでいる。報告書が多く負担になっているのは事務局でも認識しており、負担の軽減を検討している。併せて、ボランティアが地域に広がっていくように、ホームページ、SNS、LINEを使い、活動内容を発信していく。「楽しいからみんなと一緒に活動する」のが一番だと思っている。

委員 活動の報告書を市に提出する際にいろいろな意見も言うが、市の方針と言われるとそれ以上の話ができない。書きやすい書類や参加しやすい状況を考えてほしい。

会長 ボランティア人材の育成と確保はどここの市町村も課題である。午前中に砺波市地域福祉計画の委員会に参加したが、そこでもボランティアの人材不足、高齢化が進んで存続が難しいという話だった。その背景に定年延長があり、「65歳定年になるとボランティアグループに高齢者が来ない」「募集をかける時は広報だけでなく、市内の企業や中高校生を対象に、土日の活動といったメニューを増やすと活動できるのでは」という意見があった。  
ボランティアは、これから高齢者社会が続くと考えれば高齢者が中心になると思うが、裾野を広げるという意味でたくさんメニューを提示し、いろんな人が参加できるボランティア活動にしてほしいと思う。

事務局 議題（2）高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画の策定について  
ア アンケートの実施結果について  
イ 策定スケジュールについて説明。

委員 資料3-1の調査は対象者が「要支援及び一般高齢者」、資料3-2の対象者は「要支援及び要介護認定者」となっている。両方に要支援者が対象になっているが、状況によって回答が違ってくると思う。その辺を分析してみてはどうか。

会長 クロス集計を行えば、自分や家族がどういう状況の時にどんな課題があるか分かると思う。私の話になるが、40代の時に母親を1年ほど在宅で介護した。やはりお金の問題ではなく、介護の負担がしんどかった。母親は認知症で、平日の夜中2時くらいに呼ばれて行くと、ベッド横のポータブルトイレに上手く座れず、床に大の字になってうんちまみれだった。身体を拭いて、おむつを交換して、ベッドにあげて、朝6時半に起きて仕事にいかねばならなかった。その頃、子どもは小学生で、すごく大変だったという記憶しかない。その時から家族介護者への支援はとても大事だと思っている。今回の調査でも「家族介護に対する支援」が求められており、ここをもっと充実させて、家族が在宅介護できる環境が整ってほしいと思う。

委員 今回のアンケートに「人生の最終段階について」の質問がある。「在宅で過ごしたい人」が半分いて、「それ以外の場所を希望する人」の理由に、「家族に迷惑をかけられない」、「自宅でどのくらいのことができるか分からない」

と回答があり、この辺りは予想通りだった。43ページでは、「最終段階における医療・療養については考えたことがあるか」では「ある」の人が多い。しかし、(4)に行くと、「医療者や介護を担う人たちと話し合ったことはない」が半分以上である。訪問介護、訪問看護にかなり予算が使われ充実しているはずだが、「どんなことができるか」を担い手側が分かっていない部分もあると思う。市では「看取り」の事例検討会も行っていて参加者も増えていると思う。「どんなことができるか」を周知し、浸透していけば希望通り自宅で過ごせる人が増えると思う。

会 長 「本当は自宅にいたいけれども、家族に迷惑をかけたくない」という人は多いと思う。

委 員 家族で介護している人たちの中には、自分の辛い気持ちを分かってもらえず、苦しんでいる方は結構いると思う。生活の中での困った状況について、その困った状況を一体どこに相談していいのかわからない。いろいろ探して、相談窓口に行ってもそこではなかったり、よき相談者に出会えなかったりで、結局相談しない方が良かったという辛い話も聞く。

先ほど、認知症の初期であれば検診で早期発見できると話があったが、実際検診で判断されるのは、困った状態になって5、6年は経っていると思う。家族が困って診断に行き、MC Iと判断されても、MC Iは認知症ではないとパンフレットを渡される。実際は家の中ではかなり困っている。認知症と認めてもらえず治療もできなくて、困っているのに分かてもらえないのが現実だと感じる。困っている人が一歩踏み出した時に、相談に行ったら良かったと思える環境づくりを考えてほしい。

会 長 認知症の手前で相談できる、柔軟な窓口があると良いと思う。

委 員 私は射水市民だが、富山市の介護サービスを受けている親戚にお手伝いに行くことがある。富山市で介護の相談をすると、「射水市民は射水市で相談してほしい」と言われる。射水市の相談窓口で電話をしたら、「すぐに予約が取れない、電話では予約できない」と言われる。翌月相談に行ったとして同じ気持ちでは相談できない。相談したい時に相談できない人が大勢いると感じる。

会 長 情報には「非対称性」があり、福祉制度やサービスの情報などは、必要とする全員には届いていない。「どこに相談に行けばいいかわからない」、「窓口が違った」などが起きないように、情報提供の方法について検討してほしい。

委員 資料3の3 11ページ、(4)で外国人人材の受け入れについての項目があるが、「受け入れを考えていない」が71.5%。と、ほとんどの施設が考えていない。職員は日本人だけで行うという考えで、果たしてやっていけるのかなと思う。他職種の話であるが、外国、東南アジアへ行って受け入れのための情報収集をしていると聞く。外国人職員無しで対応できるのであればいいが、何かしないと乗り切れないのではと心配する。

県では、高齢者がパートタイムで働く介護助手的などの事業も行っているが、実際ほとんど希望がないと聞く。先ほど会長の話にもあったが、養成校に入学が無い、卒業しても勤めない、となると第9期計画の課題は人材確保なのかなと思う。

会長 人材不足の話が出た。この場には特養施設長もおいでだがかがが。

委員 当法人はいくつか事業所をもっていて、法人本部が職員を採用している。今後は外国人に頼らざるを得ないということで、すでにベトナムから2名の職員を採用し、今後ネパールから受け入れを考えている。「全国社会保障・人口問題研究所」が示す2070年人口推計を見ても、外国人職員は1万人くらい必要、そうならざるを得ないだろうと思われる。トレンドを見すえ、かつ足元をどうするか考える必要がある。当法人は事業所がたくさんあり、職員確保を専門に考える部門がある。特養だけでなくデイサービス、地域包括、居宅等幅広くやっており、人材確保には結構力を入れている。

会長 私は仕事上、毎年富山県内の福祉施設長や事務長と会っている。そこでも外国人人材の話になるが、経営の方で「外国人は採用しない」と断言している施設、事業所が結構多い。一方で、外国人職員を積極的に受け入れているところもあり、両極化している状況だと感じる。将来的には日本人だけで人材確保できないことは目に見えているが、日本人であろうと外国人であろうとより質の高い人材を確保することが必要となってくる。単純に人数が増えればいいということではなく質の担保をどうしていくのか、これからの課題になると思う。

事務局 その他

- ア 保険者機能強化推進交付金を活用した保健福祉事業について
- イ 地域支え合いネットワーク事業普及啓発用動画について

会長 射水市が評価結果で県内1位は素晴らしい。時間も限られているので他に質問、意見がある方は、後日意見書を事務局に提出してほしい。事務局は、委員からの意見、質問を踏まえて次期計画に反映してほしい。

副会長       今回は調査報告が3つあり、大変貴重なデータを示してもらった。盛りだくさんのため十分消化できていない部分もあると思う。調査結果は第9期計画の事業に反映させる根拠となる。今より向上した事業を展開してほしい。

会 長       時間なので、令和5年度の第1回射水市高齢者保健介護保険事業計画推進委員会を閉じさせていただく。